

社会科学習指導案

日時 平成28年7月25日(月) 2校時

児童 3年生

授業者

場所

1 小単元名 「働く人とわたしたちの暮らし～店で働く人と仕事～」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説社会編の第3学年及び第4学年の内容(2)を扱った単元であり、地域の販売の仕事に関わっている人々の工夫を考えることをねらいとしている。地域にある販売の仕事が自分達の生活を支えていることや、販売の仕事の工夫、国内の他地域などのかかわりを具体的に調べていくことで、地域の販売に関わっている人の工夫を考えることができるようにする。

子供たちが追究していく対象としてスーパーを取り上げ、働く人々が安く商品を売ったり、品揃えをよくしたりするために様々な役割に分かれながら、仕入れや陳列、品質管理などたくさんの工夫をしていることを調べていき、消費者の思いに合わせた工夫があることを考えられるようにしていく。

(2) 児童観

省 略

3 単元目標

販売の仕事について、値段や品揃え、陳列などの工夫について進んで調べ、調べたことをグラフやワークシートにまとめ比較しながら考えていくことで、販売にかかわる人が消費者に合わせながら、工夫していることについて理解することができる。

4 評価規準及び道徳的学び

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解	道徳的学び
ア 地域の人々の販売の仕事の様子に関心をもち意欲的に調べている。 イ 地域の人々の販売の仕事と、自分達の生活との関わりを考えようとしている。	ア 地域の人々の販売の仕事の様子から学習問題を見い出して追究している。 イ 地域の人々の販売の仕事の工夫をまとめたり、比較したりすることでその特色について考えている。 ウ 仕事の工夫を消費者と関連付けて考え適切に表現している。	ア 買い物の様子について調べたことをグラフにまとめている。 イ 問いの解決のために見学を行い、販売の仕事の様子について必要な情報を集め、読み取っている。	ア 地域の販売に関わる人々が、消費者のために様々な工夫を行っていることを理解している。 イ 地域には販売に関する仕事があり、自分達の生活を支えていることを理解している。	B 「友情、信頼」スーパーでの調査や調査でわかったことの交流において、友達の考えを理解しようとし、足りない所は、補い合おうとしている。

5 単元の指導計画(全15時間)

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1 ・ 2	・ 買い物調べを行った結果をグラフに表す。 ・ 事実と疑問をもとに学習問題を立てる。	・ 買い物調べ(普段どこで買い物をしているか)のグラフだけでなく、よく利用する業態の割合をグラフに表したもの(消費者実態アンケート:2006年12月)を提示し、スーパーへと意識を焦点化していく。	関ア 技ア
学習問題① どうしてスーパーは人気なのだろうか。			
3	・ 学習問題に対する「問い(どことなくふうがあるのだろうか)」をもとに予想と学習計画を立てる。	・ 店内の写真を提示し予想を交流していくことで、どのような視点で店内を調査してくるのか、そのイメージを膨らませることができる	思ア

		<ul style="list-style-type: none"> ようにする。 調査方法（記録の仕方・ルール）について指導する。 	
4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに問いの解決に向けた調査を行う。 調査からわかったことを、K E Lシートに書き込んでいく。 K（見付けた工夫）を全体で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に調べたいコーナー（肉・野菜・魚・果物）をもとに、3～4名のグループを構成し、結果を全体で交流することで、お店全体を俯瞰して捉えることができるようにする。 見付けた工夫（K）なぜそのようにしているかの予想（E）2回目の調査でわかったこと（L）を記入することができるワークシートを提示する。 スーパーで行われている工夫が独自のものであることに気付くよう、コンビニと対比できるような資料を提示する。 	技イ 思イ
7	<ul style="list-style-type: none"> 見付けた工夫の理由に対する予想を交流する中で「問い（なぜそのような工夫をしているのだろうか）」を立て、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> K E Lシートに予想を記入させることで、2回目の調査活動の視点を焦点化できるようにする。 	思ア
8 9 10 本時	<ul style="list-style-type: none"> 工夫の理由についての問いをもとに、スーパーでの調査を行う。 調査からわかったことを各グループで、K E Lシートにまとめる。 全てのグループのK E Lシートを比較し、各グループで調べたことの共通点や相違点を見付けていく。 見付けた共通点や相違点を全体で交流する。 個人でキーワードから、わかったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に調べたいコーナーをもとに、3～4名のグループを構成し、結果を全体で交流することで、お店全体を俯瞰して捉えることができるようにする。 インタビューやバックヤードの見学についてスーパーの方と事前に打ち合わせておく。 グループごとにまとめられたK E Lシートを一覧にして配布する。 工夫の理由をキーワード化し、それぞれの工夫が消費者のために行われていることを確認した上で、空欄を提示し概念化を促す。 	技イ 思イ 知ア
スーパーはお客さんを集めるために様々な工夫がされている。			
学習問題②他のスーパーでも同じような工夫があるのだろうか？			
11 ～ 15	<ul style="list-style-type: none"> これまでに調査したスーパーと比較しながら工夫を調べる。 調べたことをK E Lシートにまとめ、2つのスーパーの共通点と相違点を全体で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査してきたスーパーとは異なる工夫がされている店を調査対象として設定する。 調査する視点を確認する。 スーパーと事前に打ち合わせを行い、店員さんへの質問ができるようにしておく。 2つのK E Lシートの共通点を見付けていく活動を設定し、2つのスーパーの違いがお客さんに合わせたものであることに気付くよう促す。 	関イ 思ウ 知イ
どちらのスーパーもお客さんの思いにあわせてくふうがあった。（学習問題②の解決）			

6 小中連携の視点

	小学校3学年	中学校2学年
目指す 子供の 姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活を支えている地域の人々の販売に見られる仕事の特徴やその工夫に興味・関心を持ち、自分の日常生活と結びつけて考えようとする。 地域の販売の仕事に携わっている人々の工夫を、調査活動をもとにまとめ発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方について、現実的におこっている社会的事象に対して興味・関心を持ち、深く追究しようとする。 社会における企業の役割と責任、市場経済の基本的な考え方について理解している。
手立て の視点	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題を解決するための問いをもとに学習計画立て、解決する場を設定する。 概念を形成するための「思考ツール」を用いた交流の場の設定 社会的事象への見方考え方を成長させるための別の事象と出会う場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入時に、単元を貫く課題を設定し、課題追究の道筋を示すことで学習の見通しを持たせる。 学習課題の追究において、事実認識、価値認識、価値判断に至る単元構成しそれを繰り返し取り組ませることで、社会認識の形成を図る。 価値判断が分かれる社会的事象の意味を、クリティカルシンキングの観点から追究させ、意思決定させる。

小単元の序盤

I 状況的興味の喚起・維持を促すため

学習問題へと繋がる資料提示の工夫

単元の導入において、児童の調べた買い物の様子（普段どこで買い物をしているのか）をグラフに表すことに加え、消費者がよく利用する業態の割合をグラフに表したものを（消費者実態アンケート：2006年12月）を提示することによって、問題意識をスーパーマーケットに焦点化し、学習問題を立てていくようにする。

I-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫

資料に対する既知、経験を踏まえた交流の場の設定

問題意識が焦点化され学習問題が立った段階で、スーパーマーケットでの買い物の経験を交流する場を設定したり、店内の写真を提示したりすることで、学習問題の解決へつながる疑問を生み出し、予想を交流しながらその疑問を統合することで問いを立てていく。また問いをもとに学習計画を立てられるようにする。

① 社会事象との出会いから、問題意識や学習の見通しを持つ子供

小単元の中盤

II 個人的興味の出現を促すために

学習問題に向けた「本時の問い」を解決する場の設定

本単元では、2回の調査ごとに

- (1) 問いの解決のために調査活動を通して事実の収集を行う。
- (2) 調査後に、調べてわかったことをKELシートに記入し、グループで交流する。
- (3) 全体交流を行う。

という学習過程を設定する。(3)の場面では、工夫以外の事実も収集されていると考えるため、交流する中で、整理されていくようにする。

また、交流の際に、1回目の調査で児童が調べた工夫を、他の業態と比較できるような資料を提示することによって、その工夫がスーパーの販売の特色であることに気付かせるとともに、新たな問いが生み出されるようにする。それにより、2回目の調査では、工夫の理由に着目して調査を行い、目に見えない働く人の工夫に気付くことができるようにしていく。

II-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫

概念化を図る「思考スキル・ツール」の活用

本単元では、KELシートを使用し、調べた事実を整理し、概念化していくよう促していく。

1回目の調査では、「K（見付けた工夫）」として、児童は調べた事実を記入していく。この段階では、値段が見やすいことや品揃えが豊富であることなど、目に見えやすくわかりやすい事実を収集していく段階となる。

次に、新たに生み出された問いに対する予想を「E（なぜそのようにしているかの予想）」として記入していく。これまでの経験をもとに工夫の理由を考え、自分の見方や考え方を自覚化できるようにする。

その後、2回目の調査を通して調べた工夫の理由を「L（2回目の調査でわかったこと）」として、記入していくことで、他のグループが調べたこととの共通点と相違点に目を向け、それぞれの工夫の理由をキーワード化していくことができるようにする。そして、それらのキーワードをもとに、集客のための工夫があるという概念を形成できるようにしていく。

② 1つ1つの事実を関連付けながら概念化し、社会的な見方や考え方を形成する子供

小単元の終盤

III 発達した個人的興味の出現を促すために

社会的な見方・考え方を成長させる場の設定

学習問題①が解決された時点で、Iの場面で挙げられていた他のスーパーを提示する。このことにより「他のスーパーでも、自分達が調べてきたスーパー同様の工夫がされているのだろうか。」という新たな学習問題が生み出されるようにする。その際これまで調査してきたスーパーとは大きな違いのある店舗を取り上げて比較を行うことで、共通点を見出しこれまで形成した概念を強化したり、また2つのスーパーの相違点となる生産者の見える表示やインターネット販売などの事実から様々な消費者に合わせた工夫があるという新たな概念を形成したりできるようにしていく。

小単元としてのまとめ

III-(1) 内的活動の高まりを促すための工夫

社会的な事象を認識し見方や考え方を総合・再構築する場の設定

IIIで取り上げたスーパーで調べたことを新たなKELシートに表し、それまでの学習過程で蓄積されているKELシートと比較し共通点を見つけていく活動を設定することで、2つのスーパーの比較を促し、それまで形成された概念を強化する。さらに、共通点から相違点へ着目を促すことで、新たな概念を形成することができるようにする。

③ 社会的な見方や考え方を成長させる子供

8 本時について（10/15 時間目）

(1) 研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点Ⅱ-①の手立てを講じていく。

本時では、まず各グループのK E Lシートの一覧を全グループに配付する。そのことにより他のグループが調べた食品の工夫と自分たちが調べた食品の工夫が比較でき、食品は違っても同じような目的でされている工夫があることやその食品ならではの工夫に気付くことができる。

その後、共通点や相違点を交流する中で、工夫の理由をキーワード化していく。工夫の理由がキーワード化され抽象化されていくことで、さらにそのキーワードをまとめ、概念化していくことができるようにしていく。

(2) 本時の目標

2回目の調査で調べた工夫の理由について、K E Lシートを用いて交流することを通して、共通点や相違点に気付く、スーパーがたくさんさんの工夫によってお客さんを集めていることを理解することができる。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 ☑自己肯定感	評価 個に応じた指導 (△発展的▲補加的)
<p>○前時までの学習内容を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニにはない工夫がたくさんあることがわかったよ。 ・どうしてそんな工夫をしているのかインタビューしてきたよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>どうしてたくさんさんの工夫をしているのだろうか？</p> </div> <p>○全てのグループのK E Lシートを比較し、各グループで共通点や相違点を見付けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜も果物もダンボールのまま置かれているものがあつたよ。 ・ダンボールのまま置くのは、安く売るためなんだ。 ・肉も魚も近くで獲れたものがたくさん売られていたよ。 ・魚もお客さんが安心して買えるようにするために近くで獲れたものを売っているんだね。 ・顔写真が飾られていたのは、野菜だけだね。 <p>○見付けた共通点や相違点を全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果物も野菜も手間を省いて安く売るために、ダンボールのまま並べられていたよ。 ・たくさん仕入れるのも安くするためだって教えてくれたよ。 ・肉も魚も地元のをたくさん売っていたよ。 ・お客さんが安心して買えるようにするためだと教えてくれたよ。 ・野菜を育てている人の写真も、お客さんの安心のためだね。 ・野菜も肉も同じものでも産地が違うものをおいて、お客さんが選べるように売っているんだよ。 ・お肉はパックの大きさを変えて、選べるようにしていた。 <p>○個人でキーワードからわかったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんのために安さや、安心、選べるように工夫していた。 ・お客さんに来てもらえるようにする工夫をたくさんしているんだね。 	<p>□前時までの学習を想起させ、本時で解決する問いを確認する。</p> <p>□グループでまとめたK E Lシート（調査した食品ごと）を一覧にして配布する。Ⅱ-①</p> <p>□拡大K E Lシートを提示する。Ⅱ-①</p> <p>□共通する工夫から、工夫の理由をキーワード化し、そのキーワードから他の工夫についても結び付けて考えられるように促す。Ⅱ-①</p> <p>□工夫とキーワードの結び付きが視覚化されるよう板書していく。Ⅱ-①</p> <p>□それぞれの工夫が消費者のために行われていることを確認した上で、空欄を提示し概念化を促す。Ⅱ-①</p>	<p>【思い～ 観察・発言・記述】</p> <p>▲概念化につまずきがみられる場合は板書を見るよう促し、工夫の対象に着目できるよう促す。</p> <p>△工夫の理由の共通点に気づき概念化できているグループについては価値づけけるとともに交流の中で全体に広げられるようにする。</p> <p>【知ア～ 観察・発言・記述】</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スーパーはお客さんを集めるために様々な工夫がされている。</p> </div>		
<p>○店長さんが販売への思いを語っているビデオを視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんのことを考えて様々な工夫をしているんだね。 	<p>☑店長さんへのインタビューを提示することで調べたことの深まりを価値付けるようにする。</p>	